

中立的な立場からグローバルな視点を養う情報源として、授業・研究でFTを活用

professional.ft.com



課題

国際社会で活躍できる次世代型人材の育成を目指す。研究・論文で使用できる偏りのないファーストリソースの模索。

解決策

特定の視点からの見解を論じる傾向が強いメディアが多数存在し、なおかつ学生が日本語メディアに触れる機会が多い中、偏りのないニュートラルな情報源を学生に提供する事

効果

中効果立的な立ち位置から世界情勢をグローバルな視点で扱っているFTに学生が親しむことで、新たな視点の発見につながる。偏りのない情報源に触れる事で、言語を超えた国際的な視点を学生に理解させることができた。



FTはニュートラルなスタンスで、客観的な立場から分析しているので授業で重宝しています

千葉大学大学院人文公共学府長
水島治郎

世界を先導するグローバルな大学へ

千葉大学は世界最高水準の教育研究機能を有する総合大学としてさらなる発展を遂げていくため、国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成を目指している。

水島教授はヨーロッパ政治、特にオランダ政治を専門とし、「ポピュリズム」が世界的な潮流となる前から分析と研究を続けてきた一人。千葉大学大学院人文公共学府長として4つの学部と関わりを持ち、豊富な知識で学生の指導にあたる。

「政治関係の記事に関して信頼が置ける」FTを読むようになって30年、千葉大学で購読が始まってからはデジタル媒体でアクセスがしやすいことも手伝い、情報のメインソースとして目を通すのが教授の毎日の習慣となっている。

中立的な立場から学生への情報提供を

グローバルな人材を日本の大学から排出するには、彼らが触れる情報源の質が非常に大切になってくる。「教育の場は一種のプラットフォームなので様々な見方を学生に提供したい」

FTはニュートラルなスタンスで、客観的な立場から分析しているので授業で重宝している」（水島教授）

また、海外の国際情勢だけでなく、日本でおこっている事が世界でどのような見方をされているかを知

る事も重要だ。水島教授は「学生が日本語メディアに触れる機会が多いなかで、FTの国際的な視点と付き合い合わせながら世界の情勢をグローバルな視点で理解させることができる」という。

「フィナンシャル・タイムズは日本に対するステレオタイプ的な記事がほとんどない」ため、身近な国内情勢も正確な分析と日本を客観的に見た視点を養える。

もちろん「ブレグジット等を扱った記事は展開が細かくフォロー・分析されていて、研究論文にも使用している」

言語を超えた能動的な情報収集を学生に促す

教授が記事を選んで授業で使用するだけでなく、「ゼミではヨーロッパに関するメディア報道を拾ってきて学生に紹介させるようにしています」（水島教授）

日本語がファーストランゲージとして主流である国内の大学において、英文のメディアを学生に勧めるにはどんな課題があったのか。「英語の勉強のため、だと学生には響かない。英語メディアからしか得られないものもある。何かを知るという事の方がモチベーションになりグローバルな世界に触れるきっかけとなる」と教授は言う。



“

英語の勉強のため、だと学生には響かない。英語メディアからしか得られないものもある。何かを知るという事の方がモチベーションになりグローバルな世界に触れるきっかけとなる

千葉大学大学院人文公共学府長
水島治郎

